

# 熊本・大分地震、被害大きく

## 化学関連企業に影響

### 設備・物流網など確認急ぐ

熊本県を中心に相次ぐ地震は化学関連業界にも影響を及ぼしている。電力などインフラ面の問題もあり、多くの工場が操業を停止している。今後、余震の影響で遅れていた確認作業が進むことから、物流網も含めた詳細が明らかになってくる見通し。

〔関連記事4、7面〕

熊本県水俣市に中核拠点を構えるJNCは、交通事情などのインフラ状況により今後、出荷・物流に影響が出る可能性があることを明らかにした。水俣製造所の生産設備は一部停止しているが、安全確認できたものから順次運転を再開して

いるという。すべての設備の稼働再開時期は未確定。同社は九州地区に13カ所の水力発電所を保有しているが、一部が停止しており現在調査を進めている。昭和電工のナフサクラッカーを中核とする大分コンビナートには影響は

なく、通常通りの稼働を続けている。大目精化工業の樹脂用着色剤製造子会社である九州化工（熊本県宇土市）は15日から操業を再開させている。余震が断続的に続いていることから16日は出勤を見合わせ、17日から工場施設内の確認作業を行っている。人的被害はないものの、インフラを含めた工場施設内の設備関連の被害状況を

確認中、操業再開は決まっていない。大型ブロー成形品で国内シェア75%を有するコダマ樹脂工業の熊本工場（宇土市）は、建屋の一部にひびが入り、工場内の製造機械その他は激しい揺れにより定位置から移動した。製造機械の点検・再配置には数週間かかるもよう。同工場では各種液体容器や農業用資材を生産している。ゴム加工分野では、ブリヂストンはゴムクロールや高圧および工業用ホースなどを製造する熊本工場（熊本県玉名市）が地震発生直後から生産を停止中。生産設備などに異常などはないが復旧の

めどはついていない。NOKではシール製品を生産する熊本事業場（熊本県阿蘇市）が、電力などのインフラおよび周辺道路の寸断により稼働を停止している。工場の設備の点検など被害状況を確認している。

また、東海カーボンのフラインカーボン生産拠点である田ノ浦工場（熊本県芦北町）は、停電の影響から予備電源で部分操業を続けている。輸送関係については影響を確認中としている。

試験メーカーの同仁化学研究所は益城町近くの熊本テクノ・リサーチパーク内に本社がある。人的被害はないもようだが、社屋などの被害状況確認のため役員・管理職が情報収集を行っている。

## 液晶フィルム、復旧難航

16日の本震の影響で、液晶ディスプレイ偏光板向けフィルムの工場が相次ぎ操業を停止している。熊本県宇土市築籠町にある日本合成化学工業の熊本工場は、18日午前の時点では「余震が続いているため工場内に立ち

入ることができておらず、製造設備などにどれほどの被害が生じているか詳細は把握できていない（同社）という。現時点で「操業再開のめどは立っていない。時間はかかりそうだ（同）」との見通しを示している。

同工場ではポリビニルアルコール（PVOH）「ゴセロール」、変性PVOH「ゴセネックス」、液晶ディスプレイ用偏光板向けPVOHフィルム「OPPLフィルム」、熱溶解積層方式3Dプリンターのサポート材向け

などのフテンジオール・ビニルアルコール共重合樹脂「ニチゴーグポリマー」を生産している。OPPLフィルムは熊本工場のほか大垣工場（岐阜県大垣市）でも製造しているが、広幅品は熊本工場のみ。偏光板向けPVOHフィルムは世界で同社とクラレの2社が独占している。

富士フィルムの生産子会社である富士フィルム九州（熊本県菊陽町）も操業を停止。同工場の主力製品は液晶ディスプレイの偏光板に使用されるTAC（トリアセチルセルロース）フィルム。18日現在、建屋・設備の被害を確認中で、復旧のめどはたっていない。なお、TACフィルムは神奈川県と静岡県の間でも生産している。